

2021年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	浮世絵風景画—広重・清親・巴水 三世代の眼—			担当者名	村瀬可奈、滝沢恭司		
会期	2021年7月10日(土)～9月12日(日)			開催日数	55日		
協賛・後援・協力	助成: 芸術文化振興基金						
巡回館	なし						
展覧会概要	江戸、明治、そして大正から昭和という3つの時代に、伝統木版画の技術を用い風景版画を制作した3人の絵師・画家、歌川広重(1797-1858)、小林清親(1847-1915)、川瀬巴水(1883-1957)を紹介する展覧会。変わりゆく日本の風景を「三世代の眼」がどのようにみつめ表現してきたのか、その違いを対比しながら、時代を超えて響きあう風景観や抒情性に着目。373作品で、100年にわたる日本の風景を紹介した(前期・後期で全点展示替え)。						
ねらい・対象	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、日本の版画文化を紹介する目的で開始された「はんび浮世絵プログラム」の最終展。当初は2020年度に開催を予定していたが、コロナウイルス感染症拡大のため2021年度へ延期された。国内外で高い人気を誇る広重・清親・巴水が一堂に会するという、これまでにありそうでなかった構成で、会期変更前はインバウンドを含むあらゆる層の来館を狙った。会期変更後は、夏休み期間中の子どもたちや、遠方への外出を控える市内～首都圏在住者を主なターゲットとして、風景版画を旅するように鑑賞していただくことを目指した。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	記念講演会1	7月18日(日)	「小林清親の広重学習—《東京名所図》と《武蔵百景》を中心に—」	赤木美智(太田記念美術館主幹学芸員)	55人		
	記念講演会2	8月7日(土)	「'彩'と'趣'—広重・清親・巴水をつなぐもの—」	大久保純一(当館館長)	59人		
	版木摺り体験	7月24日(土)	復刻浮世絵版木摺り体験	渡辺利江(当館学芸員)	25人		
	寄席	8月1日(日)	芹ヶ谷はんび寄席	林家正雀、林家彦三、鏡味仙成、のだゆき	57人		
	版画体験イベント	8月13日(金)	My landscape—風景の手ぬぐい—	田中茜(アーティスト)	46人		
	こども鑑賞会	8月18日(水)	こどものための鑑賞会 おうちで版画美術館	富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	13人		
	英語によるスライドレクチャー	8月22日(日)	“The Japanese Cityscape in Print: Hiroshige to Hasui”	フランク・ウィットカム(東京国立博物館アソシエイトフェロー)	コロナウイルスのため中止		
	担当学芸員によるスライドトーク	7月17日(土)	「巴水 大正・昭和の新版画」	滝沢恭司(当館学芸員)	48人		
	担当学芸員によるスライドトーク	8月29日(日)	「広重・清親の浮世絵風景画」	村瀬可奈(当館学芸員)	35人		
	プロムナード・コンサート	9月11日(土)	「音楽と風景」	玉川大学芸術学部学生、桜美林大学芸術文化学群学生	130人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	900円	450円	無料	・初日: 7/10 ・シルバーデー(65歳以上無料): 7/28、8/25			
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	8,099人	3,156人	11,255人	10,113人	543人	599人	—人
	目標値	12,930人					
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	6,241千円	2,226千円	86千円	1,184千円			
事業経費	・講師謝礼	131千円					
	・原稿執筆謝礼	629千円					
	・展覧会出陳謝礼	510千円					
	・通信運搬費	2,975千円					
	・作品額装委託料	895千円					
	・広告宣伝委託料	1,097千円		12,007千円			
	・ポスター等作成委託料	4,089千円					
・ディスプレイ作成委託料	1,681千円						
		内、2020年度514千円					
		内、2020年度3,039千円					
		内、2020年度482千円					

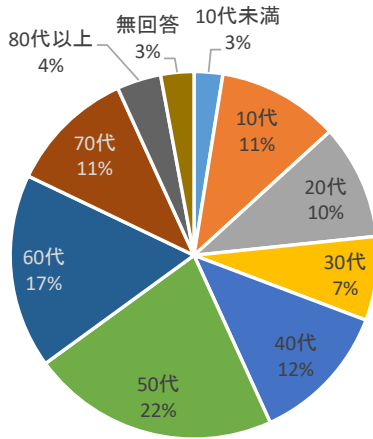
主な広報・取材等の講評	【テレビ】イツコム地元NEWS、TOKYO MX「わたしの芸術劇場」ほか 【ラジオ】エフエムさがみ 【新聞】The Mainichiほか 【ウェブ】和楽webほか							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	515 件	4.6 %	34 %	60 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	98.8 % 98.2 % 91.7 %
	主なご意見	別紙のとおり。						
工夫と反省点、改善方法	予備調査	本展は大久保純一館長と学芸員2名で、それぞれ広重・清親・巴水を分担するかたちで企画構成を行った。2019年夏頃より各自で準備を進め、本格的な出品交渉は2019年秋の「美人画の時代展」が終了した2019年12月頃より開始した。						
	作品選択	各絵師・画家の作品を120点前後を選定し、合計373点を出品。作品保存の都合上、会期中に全点展示替えを行った(常時約185点を展示)。「第1章 江戸から東京へ—三世代の眼—」では、同じ場所・モチーフを題材にした3人の作品を並べ、江戸・東京名所がどのように描き継がれてきたかを比較しながら、3者の特徴をわかりやすく提示した。2章では広重、3章では清親、4章では巴水を取り上げ、絵師・画家ごとの風景版画の特質や変遷を掘り下げた。						
	図録作成	原稿の執筆は館長を含む担当者3名で分担し、エッセイ3本、作品解説、関連年表、主要参考文献を収録した。会期変更の都合により前年度予算で作成したため、2021年3月に完成し、会期1ヶ月前より館内のミュージアムショップで販売を開始した。売れ行きは大変好調で、最終日の前日に930部が完売した。						
	広報	プレスリリースの発送、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagram、町田市YouTubeチャンネルへの投稿等を行った。また2020年8月には、会期変更前に予定していた「浮世絵フェア」と林望氏による記念講演会を、次年度への予告を込めて開催。「浮世絵フェア」では出品予定作品の一部を市民展示室で特別公開した。こうした活動の成果により、会期前からSNS等で開催を楽しみにする声が聞かれた。SNSでは作品紹介の投稿への反響が多かったが、会期前半は展示替えやイベントの準備で十分な広報が行えなかった。今後はあらかじめ投稿内容を準備するなどの改善を行いたい。						
	宣伝	駅貼りポスター、Twitter広告、宣伝動画の配信等を行った。同時期に「巴水」「新版画」「浮世絵風景画」をテーマにした展覧会が多く開催された影響か、テレビや新聞等主要メディアからの取材は多くはなかったが、Twitter広告では表示回数が52万回以上に及び、一定の宣伝効果を発揮した。ちなみに、アンケート集計結果で展覧会情報の入手手段として「テレビ番組」が挙がっているが、これは6月に「#映える風景を探して」展の紹介で放送された『ぶらぶら美術・博物館』のことと考えられる。						
	ディスプレイ	出品作品は浮世絵・新版画で判型が統一されていたため、空間に変化をつけるために会場内には章ごとにバナーを設置した。本展の見どころである第1章全点に加え、各章で5点ずつ撮影可能作品を設定した。また展示室の最後に写真撮影バナーを設置した。解説キャプションはわかりやすいと概ね好評だったが、「文字のサイズが小さく読みづらい」という声も多く、後期展示からは文字サイズを大きくした。また、作品解説の多くに英語訳を併記した。						
	輸送・展示撤去	作品輸送にあたっては、当初よりオリパラ期間の道路規制や混雑の影響が懸念されたため、拝借先は都内を中心に可能な限り件数を限定した。結果的に9箇所より184点を拝借し、特にトラブルなく終えた。ただし個人宅からの作品輸送は、コロナウイルスの感染者数が落ち着いていた2020年秋に終わらせた。展示・撤去作業は、余裕をみて4日間かけて行った。会期中に1度、全点展示替えを行った。1日で大幅な展示替えを行った2019年「美人画の時代」展の反省を活かして2日間確保し、作品や作業員の安全を優先した。						
イベント	赤木美智氏(太田記念美術館)と館長による2本の講演会、子どものためのオンライン鑑賞会、演芸会、担当者によるスライドトークなどを行った。当初計画していたフランク・ウィットカム氏(東京国立博物館)による英語のスライドレクチャーは、感染状況の悪化のため残念ながら中止となった。しかしその代わり、担当者3名が英語で解説をする動画を作成し、YouTube にアップした。							
	子ども向けガイド&キャプション	子ども向けガイド「UKIYO-E風景画たんけんツアー!!」を作成し、展示室で配付した。クイズに答えながら展示室をまわり、作品鑑賞を楽しんでいただくことを狙った。また作品の隣に子ども向けの解説キャプションを設置し、浮世絵の基本的な技法や見どころを紹介した。今後もこうした取り組みを続けたい。						
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度より実施している「はんび浮世絵プログラム」の第4弾として企画した。 ・当初の会期は2020年7月11日～9月13日。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「インプリントまちだ展2020 すむひととゆるひと—アーティストがみた町田—」展とともに会期を変更した。 ・各種の割引制度を導入した。割引内容と利用者数:リピーター割引(508人)、着物割引(25人)、ウェブ割引(1435人)、タクシー割引(20人)、パスポート割引(6人)、シェアサイクル割引(0人) ・アンケートの結果をみると、60歳代以上の観覧者割合は32%である一方、40歳代以下は43%と多かった。2019年開催の「美人画の時代」展では60歳代以上が56%、40歳代以下が25%だったことを踏まえると、コロナ禍の影響で若い来館者の割合が大幅に増えたことがわかる。 							

「浮世絵風景画—広重・清親・巴水 三世代の眼—」展
アンケート集計結果

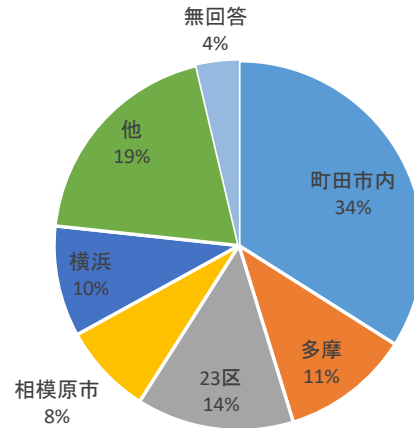
開催期間：2021年7月10日（土）～9月12日（日）

回答者数： 515 人（総入館者数：11,255人 アンケート回収率：4.6%）

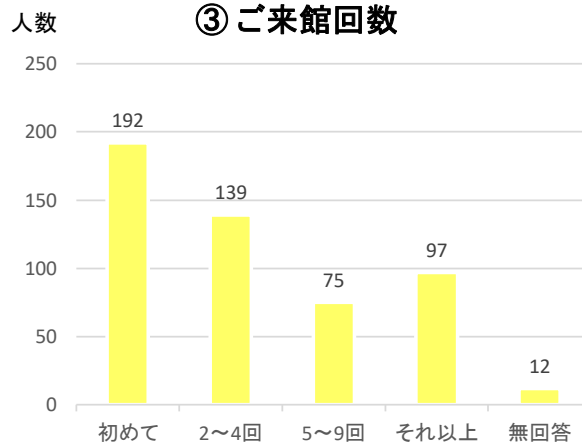
① 年齢層



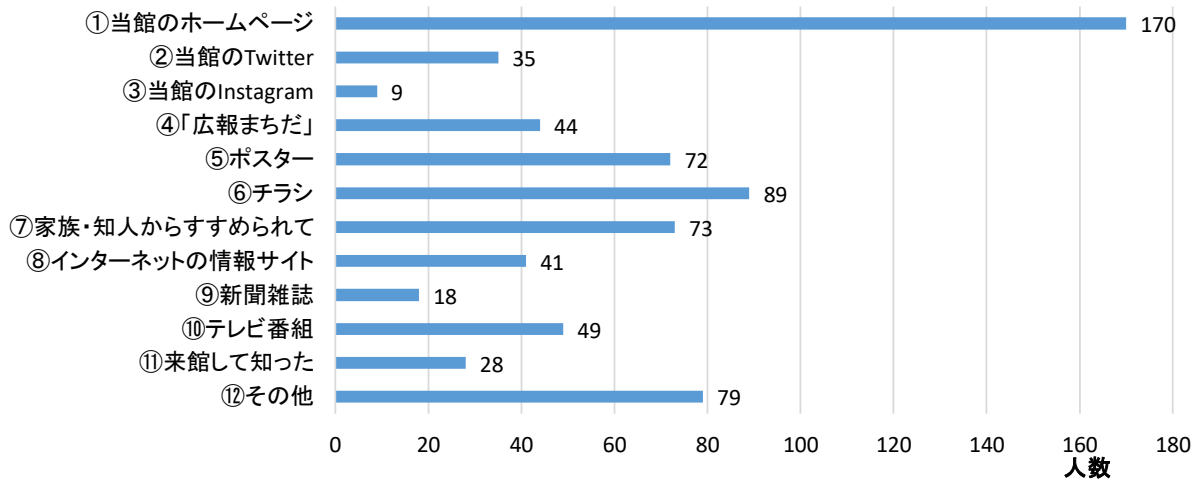
② お住まい



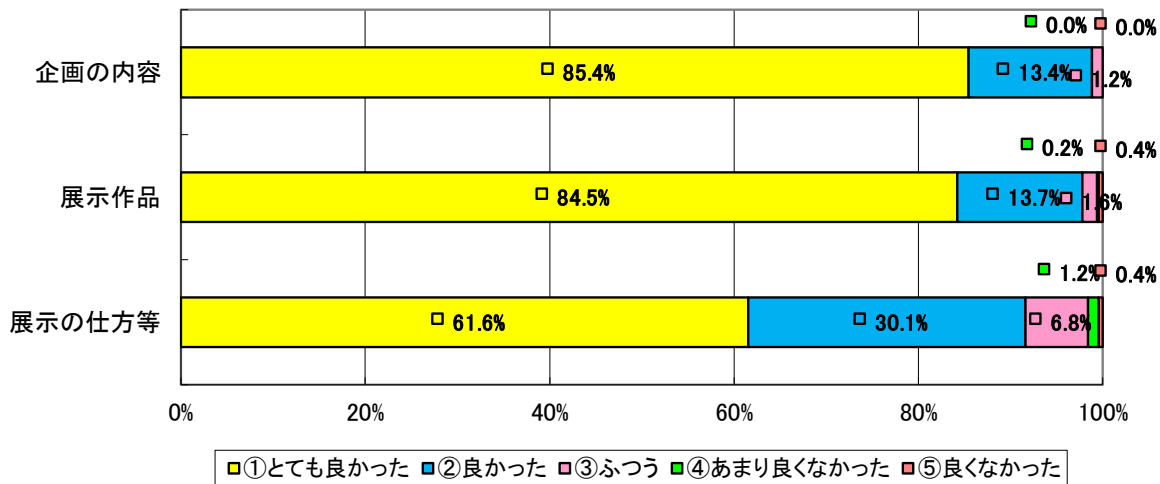
③ ご来館回数



④ 展覧会情報の入手



⑤ 回答者の満足度



⑥ 主なご意見・感想

◆展示構成

第1章の三者を比較したコーナーが面白かったです。／ 同じ場所を描いた3人の作品に胸がキュッととなりました。3人を並べる企画すばらしかったです。／ 江戸、明治、昭和の世の中が見えた感じがした。／ 展示を見ているだけで旅行した気分になれる展示で、コロナ禍だからこそ楽しめました。／ 広重、清親、巴水はそれぞれ何度と展覧会を見ているが、改めて三者を並べて見てみると、その根底には日本人が求めている(理想としている)美意識、あるいは価値観を感じた。実際にそのような風景は既に存在していないのに、どこか懐かしく、居心地の良さを感じる。／ 前期展示がとてよよく再訪しました。前後期で全作品展示替えというのは良いなと思いました。／ 前期も来ましたが、後期もまた違った着眼点等でとても楽しかったです。

◆作品

浮世絵がこんなに美しいとは思いませんでした。すばらしいの一言です。／ この展覧会のおかげで浮世絵の魅力、美しさを知ることができました！本日で2回目です。／ 広重をはじめとした浮世絵の木版を彫る人やその技術が気になります。ものすごい技術がないと絵師の絵を再現できないと思うから。

◆キャプション、鑑賞ガイド

わかりやすく、興味深い視点での解説でした。／ 説明が多すぎず丁度よい。／ 子ども用のキャプションがとても楽しかったです。／ 子ども向けガイドもあり、思いがけず小学生も楽しめて良かったです(※40歳代)。／ クイズがたのしかった。／ 摺り方のワンポイント解説が作品をより深いものにさせた。／ 技法紹介がとても興味深かったです。／ 知識のない自分にもわかりやすく理解が深まった。／ 歴史時代背景を少々知らなくても入りやすいきっかけになる解説が良かった。／ 文字が小さくて作品前に人が集まり、作品が見られなかった。

◆展示環境・写真撮影

写真OKのものがあり来館記念に良かったが、もう少し多いと嬉しいです。／ シャッター音がうるさい。すべて撮影禁止にしてほしい。／ 撮影は全部OKかNGIにしてほしい。／ 少し冷房が寒かった。／ 1部屋目の暗さが少しだけ気になりました。／ 静かで照明の落とし具合よい。／ 複数人数来場者の喋り声がうるさい。注意を促してほしい。／ 順路の示され方が明確でわかりやすかった。／ コロナ対策も万全だし、人数も少なく、安心して鑑賞できた。

◆その他

動画の館長さんのお話がとても良かったです！／ 2017年からのはんび浮世絵プログラムシリーズ全部見たいです。／ 早くコロナが終わって展示室でギャラリートーク等きけるようになればいいなと思いました。／ コロナ禍で美術館に伺う機会が減っていましたが、久しぶりに観覧してみても楽しく、心が軽くなったように思います。感染対策もしっかりされていて安心して観ることができました。／ ポストカードの種類が少なく、少し残念です。／ カタログ売り切れは残念。追加注文できれば良かった。／ 浮世絵企画もっと見たいです。ぜひ年間スケジュールで増やしてください。／ この美術館はもっと多くの人に知られるべき。発信の仕方など、ますます工夫してもらえることを期待しています。